

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2020

「考えて生きる ～大学は知の宝庫～」

第2回 10/15 (木) 13:30～15:00 報告

夫婦愛を考える ～大学は知の宝庫～

講師 田上博幸 (本学講師)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*◆◆◆◆◆*

令和2年度第2回公開講座(受講者31名)が10月15日に開催されました。総合福祉学科の田上博幸先生による「夫婦愛を考える ～大学は知の宝庫～」と題された講演は、精神保健学の観点から、夫婦関係をはじめ親密な人間関係において、共依存に陥らず、健全な相互関係を築くヒントを提供するものでした。印象に残った話題をいくつかご紹介します。

親に依存せざるを得ない幼児期に、母親からの扶養のあり方がその子の対人関係の原型を形作ります。やがて成人した際には、健全な相互依存の関係を結んでいくことになりま

す。しかし、もの、行動、そして人間関係に依存する、依存症と呼ばれる病的な状態があります。この人間関係への依存の例に、恋愛依存、DVがあり、これらは共依存といい、これはかかわっている双方が健全ではない状況にあるといえるでしょう。というのも、たとえばDVにおいて、確かに暴力を振るう側に問題があるのはもちろんですが、力を振る相手から、その暴力の受け手は逃げ出そうとせず、しかも「相手には私が必要なのだ」と考え、自らの承認欲求を満たそうと考えています。これでは暴力が止みません。

共依存とは、愛情に名を借りて互いに相手を支配しようとする関係で、それが例えば母子共依存の場合、高じると子は引きこもり精神障害に至ることもあり、母はアルコール依存症などを発症することがあります。共依存は、成長過程で暴力、暴言、ネグレクトなどを受けることによって愛着に問題が生じることで起きやすく、深刻な場合回避性障害、依存性障害、解離性障害といったパーソナリティ障害を伴います。

共依存の場合、「何度言ったらわかるのだ」と相手を罵倒し対等な関係の対話が成り立たず、共依存の関係にある人は生きづらさを抱え、地域社会から孤立しがちです。これに対し、健全な人間関係においては、「あなたを理解したい」「あなたがいるから私もがんばれる」という言葉が発せられ、自分の生き方を知り、相手の幸福を願います。人生に目的を持ち、地域社会とも結ばれて毎日を送っています。もし自分の持っている関係性に問題意識を持ったならば、このような健全な関係性を目指したいものです。

質疑応答においては、関係性修復への糸口をどうしたらよいかという問いがなされました。このご質問に対し、まず共依存かもしれないという気づきが重要で、気づいたことで問題の多くは解決に向かう、との応答をいただきました。

健全な人間関係への道しるべとして、個人の尊厳、目的のある人生、対等な対話、地域社会との繋がりがキーワードになりうると気づかされた、含蓄のある講演内容でした。

【講座の様子】

